

第2学年〇組 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 感謝する心 低学年2-(4) 尊敬・感謝
資料名 「ふえをふいて」 (学研)

2 主題設定の理由

- 本主題は、「日ごろ世話になっている人々に感謝する」ことを主なねらいとしている。人が社会生活を営む上で、尊敬や感謝の気持ちをもつことは、きわめて大切な道徳的心情である。なぜならば、人は自分独りの力で生きているのではなく、世の中の多くの人々の力によるところが大きいからである。社会の中で多くの恩恵を受けながら育っている児童に、身の回りの人々の好意や善意を素直な心で受け止め、感謝する気持ちをもつことの大切さに気付かせていきたい。また、よい人間関係を築いていくためには、お互いを認め合うことが何より大切なことである。そのためにも、相手に対して尊敬と感謝の気持ちをもって接することが求められる。

そこで、日頃世話になっている人々の存在に気付かせ、感謝の気持ちをもって接することの大切さを自覚させることは、児童に豊かな人間関係を築かせる上で大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は、家庭や学校、地域の人々に温かく支えられながら生活している。その中で、最も身近な親や教師などに対しては、素直な感謝の念を抱いている様子が見られる。しかし、その視野はまだ狭く、それ以外の人々に対しては世話になっているという自覚が少ない。したがって、自分たちのために尽くしてくれている人々の願いや努力については、思いも及んでいないのが実態である。

そこで、毎日楽しく元気に、安全に過ごせるのは、自分たちのために尽くしてくれている人々がいてくれるからであることを自覚させ、お礼の言葉を手がかりに、真に感謝することの大切さを育てることは意義深いと考える。

- 本資料は、毎朝、交通指導をしてくれているおじいさんに対して、感謝の気持ちをもって接していこうとするという話であり、学校の10周年記念式典でのおじいさんの話と、体育館いっばいに鳴り響く笛の音から、おじいさんに対する感謝の念をつかむことのできる資料である。

本時指導にあたっては、雨の日も風の日も、10年もの長い間、交通指導を続けてきたおじいさんに対し、主人公が感謝する気持ちを共感的に理解させながら価値に迫っていきたい。導入段階では、価値への方向付けを容易にするために、毎朝、交通指導をしてくださっている地域の方の写真を児童に提示し、「お世話になっている人への気持ちについて考えよう。」というめあてを意識化させる。展開前段では、おじいさんに対する「ぼく」の気持ちを考えさせる。まず、あいさつさえすることができない「ぼく」の気持ちを共感的にとらえさせる。その後、おじいさんの願いや努力を知ってから感謝の気持ちをもつことができた「ぼく」の気持ちを考えさせる。展開後段では、ねらいとする価値を内面的に自覚させるために、こころのノートを読み、生活科の町探検で出会った人のことを想起させながら、自分たちの生活を振り返らせる。終末では、読書活動推進ボランティアで、本の読み聞かせや図書館の環境整備などをしてくれているゲストティーチャー「〇〇〇〇ママ」のみなさんの話を聞き、今後の生活での価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

日頃お世話になっている人々の存在に気づき、感謝していこうとする心情を育てる。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第5校時 第2学年〇組教室に於いて

5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

地域人材: 読書活動推進ボランティア「〇〇〇〇ママ」のみなさん、交通指導員さん

- 6 準備 資料「ふえをふいて」、資料挿絵、道徳ノート、こころのノート、交通指導をしている写真、図書館教育ボランティア「〇〇〇〇ママ」が活動している写真

7 展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 朝、交通指導をして下さっている地域の方の写真を見て、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交通事故に合わないよう、立っている。 ○ あいさつをしてくれる。 <p style="text-align: center;">めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お世話になっている人たちへの気持ちについて考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ねらいとする価値への方向付けのために、交通指導をして下さっている方の写真を提示する。
展 開 前 段	<p>2 資料「ふえをふいて」を読んで、話し合う。</p> <p>(1) だまって、横断歩道をわたっている「ぼく」の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めんどうだな。 ○ はずかしいな。 ○ どうでもいいや。 <p>(2) 力をこめて拍手する「ぼく」の気持ちを、道徳ノートに書いて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「ぼく」は、どんな気持ちで、力をこめてはく手をしているのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ おじいさんすごい。 ○ おじいさん、ありがとう。 ○ ぼくたちのためにずっとやってくれたんだ。 ○ 明日から、あいさつするぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の範読を通して、資料の概要をつかませる。 ○ 恥ずかしい気持ちと、面倒くさく、人とかかわりたくないという気持ちを発表させ、「ぼく」の気持ちに共感し、誰にでもあることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ おじいさんの話を知った「ぼく」の気持ちを共感的に理解させるために、おじいさん役の教師が笛を吹いて、児童に拍手をする動作化をさせ、道徳ノートの吹き出しに気持ちを書かせる。 ○ おじいさんへの見方が変わった背景には、おじいさんと「ぼく」との関わりが明らかになったことに気付かせる。
展 開 後 段	<p>3 自分たちの生活をふり返り、お世話になっている人たちへ「ありがとう」と思ったのは、どんなことか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人が、町探検で親切にしてくれた。 ○ 「〇〇〇〇ママ」のみなさんが本を読んでもくれる。 ○ お家の人、一緒に草取りや大掃除をしてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ こころのノート P.44「ありがとうをさがそう」を読み、生活科の町探検のことを想起させ、自分の生活をふり返えらせる。 ○ 感謝の気持ちを内面的に自覚できるように、自分もいろいろな場面で、身近な人たちのお世話になっているということに気付かせる。
終 末	<p>4 ゲストティーチャー「〇〇〇〇ママ」のみなさんの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 〇〇〇〇ママになろうと思ったわけ。 ○ 〇〇〇〇ママになってうれしかったこと。 ○ 活動している上での努力など。 ○ 児童への願い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師がインタビューする形式で話を進める。 ○ 日頃お世話になっている人たちへ感謝しようとする意識の継続を図る。

